

道徳科学習指導案

- 1 学級 特別支援学級（知的） 男子1名
- 2 主題名 「ぼくにもあるかな」 A 個性の伸長
- 3 ねらい 主人公の長所について考えることを通して、自分のよさに気づき長所を伸ばそうとする実践意欲を育てる。
- 4 教材名 「ケイクんのたくはいびん」
- 5 主題設定の理由

○児童観

本学級は、第3学年児童A1名が在籍している。児童Aは、知的障害と自閉症傾向が見られ、第1学年から特別支援学級で学習をしている。昨年度まで、ひらがなやカタカナの読み書き、1位数同士のたし算・ひき算の学習を進め、今年度から漢字学習や繰り上がりのあるたし算など、国語科、算数科は第1学年の学習内容に取り組んでいる。学習の定着に時間がかかるが、意欲的に取り組もうとする姿勢が見られる。

学校生活では、人に挨拶したり、人に自分の思いを伝えようとしたりできる。しかし、相手の話を聞こうとする姿勢が少なく、注意を素直に聞けないこともある。そのため、一緒に遊ぶことができるのに、周りの親切を受け入れずトラブルになってしまう場面が見られる。それには、他者の気持ちの理解が難しいことと、自分の思いを相手に伝わるように表現することが難しいことも関係していると考えられる。その結果、友人関係などで失敗体験をすることが多くなり、自己肯定感の低下につながるような場面が見られるようになっている。

○主題観

自己肯定感を保つ・高める力は生きていくうえで欠かせない。自己肯定感が高まることで、学習や日常生活においても、挑戦・諦めない心情につながっていく。

そこで『A 主として自分自身に関すること「個性の伸長」』の第1学年及び第2学年の目標である「自分の特徴に気づくこと」の学習を通して、自分について考える経験をさせるとともに、自らを肯定的にとらえていく資質を育てていく。また、自分では気づかないよさを、他者に気づかされることで、人とのつながりのよさを感じさせることができる。

○指導観

この教材では、3台のそれぞれ種類の異なる車のキャラクターが登場する。3台のキャラクターにはそれぞれよさがあり、それが生活に生かされることに気づかせる場面が表現されている。主人公ケイクんの「体の小ささ」「一生懸命さ」「責任感」が生かされて、細い山道をのぼり荷物を届けることができるという物語である。

この教材を扱った後に、児童自らの長所を考えさせ、それを生活にいかせる場面を考えていく学習につなげていく。

本教材に含まれていると考える道徳的価値は、次のとおりである。

【この教材に含まれる道徳的価値】

- ◆ 行動面から人のよさを見つけ出すことができる。
- ◆ 自分には気づいていないよさがある。
- ◆ 相手のよさを見つける意識を持つことで、友好的な関係づくりができる。

指導に当たっては、道徳的判断力を育成するための発問として、「ケイくんは、山道を登って配達をする時、どんなことを思っているのでしょうか。」を設定した。自らにしかできない役割を与えられて、一生懸命取り組んでいる主人公の気持ちについて考えさせることで、役割を果たそうとするひたむきな姿の「カッコよさ」に気づかせる。

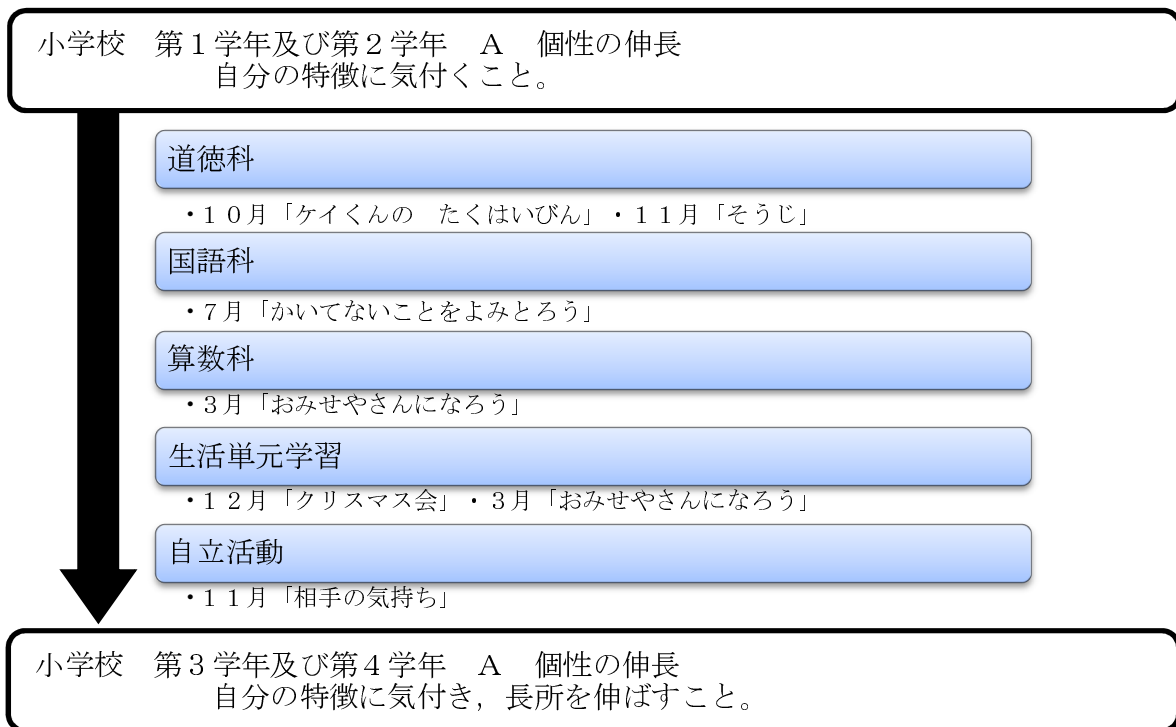
また、配達を終えた場面に注目させ、任された仕事を果たし、おじいさん、おばあさん、仲間たちに感謝されるとともに、達成感から幸せになっていることに気づかせていく。

本学級の児童は、10月から以下のようなユニットを組み、『C 主として集団や社会とのかかわりに関すること「勤労、感謝の精神」』の学習と関連付けながら学習を進める。児童の特性を学校生活で生かす実践的な学習内容にすることで、より児童の自己肯定感を高めるとともに、他者との関わりについての学びを深めることができる。様々な場面で人との関わり方を通し、相手の気持ちを考えること、助け合っていくこと、みんなの役に立とうとする心情を学び「仲よく」のテーマついてしっかりと迫りたいと考えている。

【ユニットとの関連】 ユニットテーマ「仲よく」

	教材名	内容項目・主題名	ユニットとの関連
第1時	話しかた	B 礼儀 「あいてのきもちを かんがえて」	気持ちのよい挨拶をすることで、相手とつながることができることに気づかせる。
第2時	くりのみ	B 友情、信頼 「ともだちをおもいや るころ」	困っている相手の気持ちを考え、仲良く助け合っていこうとする態度を育てる。
第3時 (本時)	ケイくんの たくはいびん	A 個性の伸長 「ぼくにもあるかな」	互いのよさを見つけあうことで、認めあうことができ、仲良くなれることに気づかせる。
第4時	そうじ	C 勤労、公共の精神 「はたらくって気持ちいい」	みんなの役に立とうとする心情を育て、良い関係を築こうとする態度を育てる。

6 他の教育活動などとの関わり



7 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (○基本発問 ◎中心発問 ●補助発問)	○指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 登場する3台のキャラクターを紹介する。 物語を通して、ケイクンのよさを考えることを知る。	○それぞれのトラックのよいところはどこですか。 <u>大型トラックのダイくん</u> ・大きな荷物を遠くまで運べる <u>冷凍車のヒエくん</u> ・冷たいものを運べる ○軽トラックのケイクンのよいところを考えよう。	○ペープサートを活用して、児童が教材に入り込めるよう工夫する。 ○それぞれ違う特性があることに気づかせる。 段ボールやアイスクリームを載せる演技を加える。
展開 I	2 「ケイクンのたくはいびん」を読んで場面の内容をつかむ。 (1) 山道を登るケイクンの気持ちを考える。 (2) 宅配を終えた時のケイクンの気持ちを考える。 (3) ケイクンのよいところを考える。	<u>課題</u> けいトラックのケイクンのよいところをかんがえよう。 ◎ケイクンは、山道を登って配達をする時、どんなことを思っているでしょうか。 ・あつい、疲れた ・頑張る ●どうして暑いのにがんばるの？ ●どうして大変なのにがんばるの？ ・たのまれたから ・おじいさんおばあさんが待っているから ○おじいさんとおばあさんに届けた時、ケイクくんはどう思ったでしょうか。 ・うれしい気持ち ・できたって気持ち ○ケイククのよいところはどんなところだったかな。 ・せまいみちでもはこべるところ ・さいごまでがんばるところ	○気持ちを考えることが難しい時は、児童にケイクン役をさせながら進め、整理していく。 ○児童の語彙力を補うために、児童の発言に対して、ていねいに問い返しをしながら考えを深めていく。 ☆配達する時のケイククの気持ちを考えることができる。 ○頑張ったら、おじいさんおばあさんも所長さんもケイクくんもみんな「うれしい気持ち」になることをおさえる。 ○板書を見ながらケイククの良いところを整理する。

<p>展開Ⅱ</p>	<p>3 自分のよいところを気づく。</p>	<p>○Aくんのよいところを他の人にインタビューしてきたので、映像を見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫が好きなどころ ・あいさつができるところ ・いろいろな人とお話ができるところ 	<p>○まわりの人からのメッセージを聞き、新しい自分に気づかせる。</p>
<p>終末</p>	<p>4 これからの生活について話す。</p>	<p>○ケイクんのよいところやAくんのよいところがたくさんわかりましたね。ケイクんみたいに活躍できる場面を一緒に探しましょうね。</p>	

8 板書計画

